

シビックセンター探訪①

二戸市シビックセンター
☎25-5411

謎の巨大生物を探せ

東北地方もようやく梅雨入りし、二戸市も雨の季節となりましたが、この梅雨が明けるといよいよ夏本番を迎えますね。そして夏と言って思い出されるのは昆虫採集ではないでしょうか。

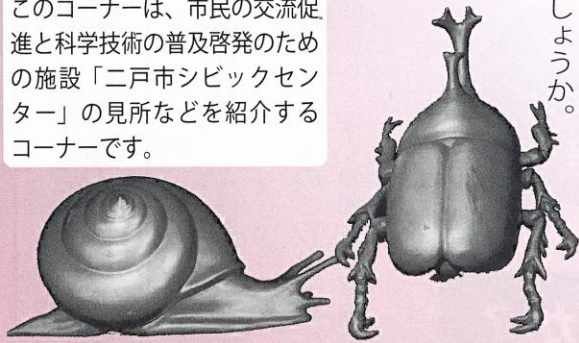
シビックセンターには、あまり知られていませんが、これからの季節を代表するある昆虫が潜んでいます。一昔前は木の蜜や街灯によく集まっていたものの、最近ではあまり姿を見かけなくなりました。昆虫の王様カブトムシです。シビックセンターのある場所に、おおよそ1匹はあるという黄金に輝く巨大なカブ

トムシ（写真参照）が隠れていますので、ぜひ探してみてください。カブトムシの他にも、梅雨時によく映えるカタツムリもどこかに隠れていますよ。

① シビックセンターの中にはいません。
② 高いところにいます。

この夏、お子様をどこへ連れて行ったらいいかお悩みの親御さんは、足を運んで一緒に観賞してみてくださいいかがでしょうか。

このコーナーは、市民の交流促進と科学技術の普及啓発のための施設「二戸市シビックセンター」の見所などを紹介するコーナーです。



※注 昆虫採集はできません

こみゅにTeaたいむ

1 杯目

地域にもっと女性の輝きと元気を！

『男女共同参画社会』って、皆さんどんなイメージを持っていますか？

最近よく耳にするけれど、実はよくわからない、といった声も聞こえてきます。

男女共同参画社会とは、性別にとらわれず、男女がともに個性、能力を発揮できる社会のことです。

たとえば、町内会など地域活動の場に目をむけるとしましょう。ご近所づきあいが多い女性は、地域にとけこみやすいと思います。さらに、女性の「育児」、「家事」、「介護」などの多様な経験は、住みやすい地域づくりにもつながると考えられます。地域に女性の輝きと元気を生かし、住みやすく明るい二戸市にしましょう。

6月17日にアイーナ（盛岡市）で開催された『いわて男女共同参画フェスティバル2007』では、二戸市アグリ生活研究会（鷹場幸恵代表）が、『にのへ you and me 現在・過去・未来』と題して寸劇を上演しました。農村女性が子育て、介護を乗り越えて明るい未来を手にするまでのストーリーを、方言を使って親しみやすく演じました。

二戸市からワークショップ（注）として参加するのは初めてのことでしたが、上演した皆さんは、練習の成果を十分に発揮し、実に堂々と演技をしていました。

会場には、県内各地の約50人が参加し、寸劇上演後には交流会が開かれました。平泉町から参加した女性は「自分も劇中で描かれたように苦労してきたが、劇をみて、これからの生活に希望が持てた」と共感していました。また、農業経営を担っている家族が皆で話し合い、ルールをつくる「家族経営協定」も寸劇で紹介され、参加者は男女共同参画社会の必要性を再確認していました。

（注）ワークショップ…体験型の講座



農村女性の明るい未来を寸劇で表現しました

この欄の問い合わせは、市地域づくり推進課（内線655）まで